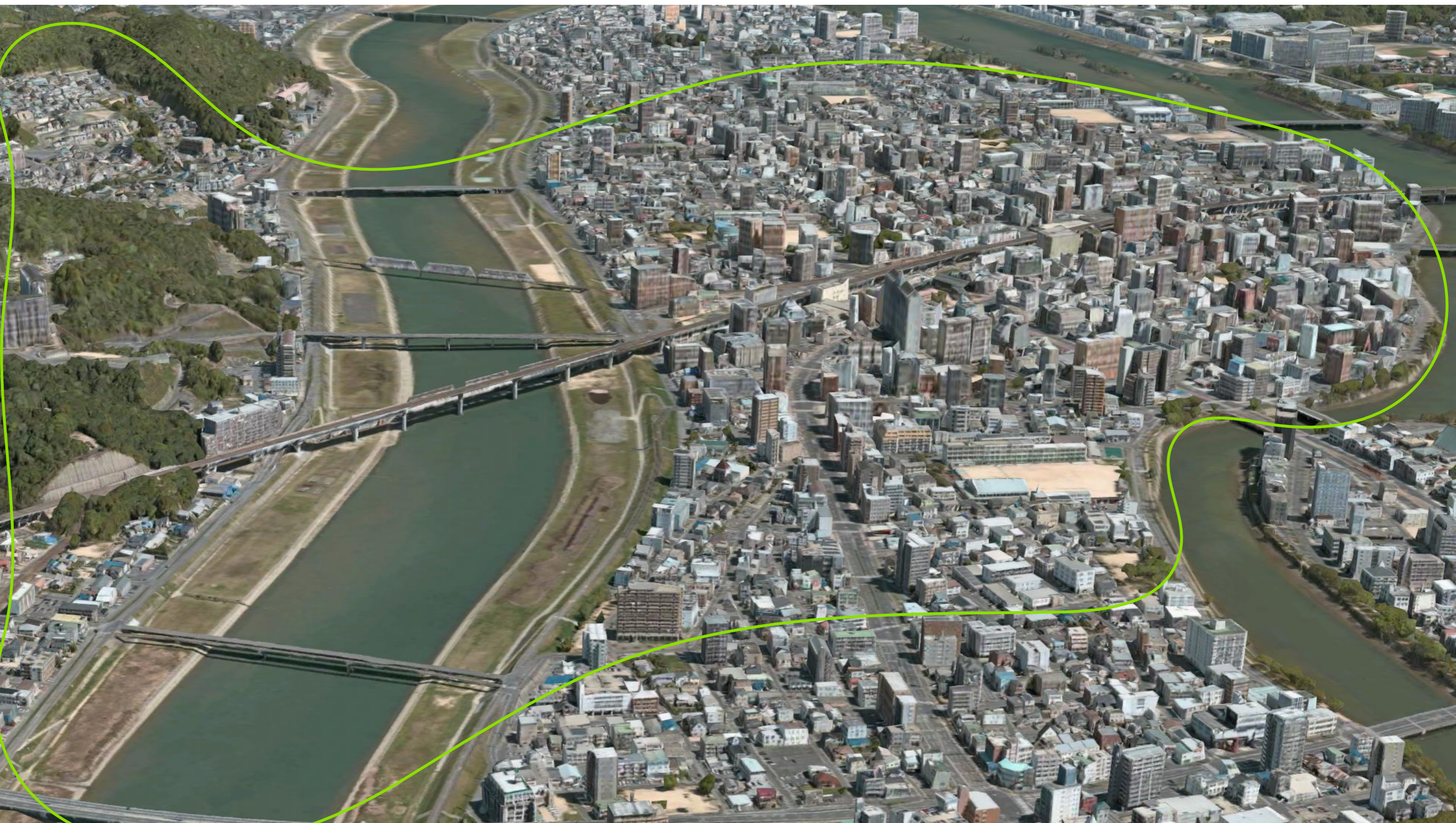


三篠地区自主防災会連合会

会長 中江正彦

お手伝い その1 谷川美樹 その2 星野哲郎

防災意識の育成



三篠学区のエリア

楠木町一丁目、三篠町一丁目、三篠町二丁目（ただし、大芝学区分を除く。）
三滝町、打越町、横川町一丁目 横川二丁目、横川町三丁目、横川新町、
中広町三丁目、三滝山、三滝本町一丁目、三滝本町二丁目、竜王町、山手町

山もあって川に挟まれて放水路に守られた地域です。

過去はこんな感じでこの地域は扱われていました。

この地域の歴史

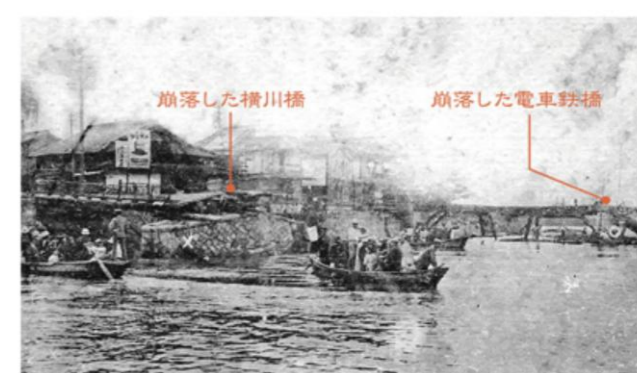
広島城普請では、「城下町の堤防は高く、城下町より上流側の堤防は低くして浸水させ、下流の水量を減らす」との考えから、別府の荘の本川堤防は低く築かれました。太田川が氾濫するたびに水浸しになり、出所は不明ですがこの地は「さいかちヶ原」とも呼ばれました。

今も本川右岸では、堤防を切り下げた「水越し」の痕跡が確認できます。「打越町」という町名は、浸水して溜まった水が「内」から外（旧福島川、旧山手川）に「越す」という意味を含んでいると考えられます。

そうして近年まで水害に苦しめられた横川。1919年7月5日の芸備新聞には、「三篠新庄橋、横川橋、電車橋が流出し、人家は床下浸水、横川駅の如きは天井下まで浸水。横川は孤立し援助の方法なし」という記事が掲載されています。



たらいを舟にして移動する人の姿も
1919年（大正8年）の水害
広島市公文書館提供



横川橋崩落 1919年（大正8年）の水害
広島市公文書館提供

治水対策による太田川放水路 の工事



太田川放水路工事前の広島 1948年（昭和23年）撮影
被爆50周年 図説戦後広島市史より



太田川放水路工事後の広島 1970年（昭和45年）撮影
被爆50周年 図説戦後広島市史より

治水工事のおかげで放水路より
東側の住民が過去の災害を忘れて
平和ボケしています。

避難指示が出て
も動かない、！

発想の転換

大人は 動かない 話を聞かない 情報が届かない

子どもは 動く 話を聞いてくれる 情報も届く

子どもが防災の中心にいれば
早めの避難が実行できる！

詳しくは
三篠自主防災会ブース
へ

お待ちしております！！